

2025 年 11 月 18 日（火）【外為 L a b】松田哲
タイトル：【勤労感謝の日とサンクスギビングデー】

この週末は、日本の勤労感謝の日（毎年 11 月 23 日）です。

今年（2025 年）は、11 月 23 日が日曜日なので、翌日（11 月 24 日）が振替休日となり、連休になります。

そして、その週の 11 月 27 日（木）が米国のサンクスギビングデーで、米国の休日になります。

少し気が早いのですが、「日本の勤労感謝の日」と「米国のサンクスギビングデー」が過ぎると、マーケット（金融市場）は、クリスマス相場に突入します。

クリスマス相場になると、市場参加者が徐々に少なくなり、マーケット（金融市場）の値動きも、通常とは違うことも起こり得ます。

市場参加者が減少すると、値動きが極端に鈍くなり、一日中ほとんど値動きが無い状態になる、とか、あるいは、市場参加者の少ない時に、突発的なニュースが出て、信じられない程に大きな値動きになる、とか。

だから、クリスマス相場のシーズンは、積極的に相場に参加しないことも戦略のひとつだ、と考えます。

クリスマス相場の際には、少なくとも、ポジションを小さくして、リスクを大きくしないことが重要だ、と考えます。

+++++

2025 年の年末が近づくにつれて、様々な事象が依然として混沌としています。

米国では、トランプ政権の支持率が低下しています。

トランプ関税に関しても、農産物・食品の関税を引き下げるなど、方針転換を余儀なくされるなど、その矛盾点が指摘されています。

ロシアとウクライナの情勢にしても、混沌としたままです。

ガザ情勢にしても、悲惨な情勢が続いています。

さらに、ここにきて、日本では、高市首相の発言が、中国の逆鱗に触れる形で、大きな問題になっています。

どれもこれも、簡単には解決できない事象と言えるのでしょう。

一般論を述べるならば、

「これらの重要なテーマは、年内には決着せずに、来年に持ち越される」と考えています。

そう考えると、今年（2025 年）は、早めにクリスマス相場への対応を取る方が良さそうだ、と考えます。

+++++

ただし、日本のインフレ傾向には、変化が無い、と考えています。

換言するならば、クリスマス相場に突入しようとも、その期間にも、日本のインフレは進行する、ということです。

前回のコラムでも述べましたが、簡単なインフレ対抗策は、インフレに強い資産を保有することです。

一般に、インフレに強い資産と言われるものは、株式、不動産、金（ゴールド）、外貨建て資産などが挙げられます。

これらの資産は、物価の上昇と連動して価値（価格）が上昇します。

インフレ・ヘッジは、個々人でも行う必要が出てきたのだ、と考えます。

+++++

（2025 年 11 月 18 日東京時間 12 : 10 記述）